

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学 1 年	グローバル選抜探究	社会	地理	2
教科書・教材				
『中学生の地理』（帝国書院） 『中学校社会科地図』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）

様々な国や地域に住む人々の生活への理解を深め、地理の基礎的な知識と情報を活用する能力を身につける。その知識を活用し、教科横断的な視点で物事を捉え表現できる力を身につけ、外部模擬試験にも十分に対応できる力を養成する。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	世界の地域構成を位置や分布に着目して理解し、課題を多面的に考察・解決する活動を通じて、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置を基に地域構成を理解し表現する能力を身に付ける。 ・世界の地域構成 ・日本の地域構成
	人々の生活が自然及び社会的条件と相互に影響すると理解し、世界各地の生活や環境の多様性や宗教分布を理解する。アジア州では、地域的特色を理解し急激な経済発展の理由を、人口増加や他地域との結びつきなどに着目し、多面的・多角的に考察する。 ・世界各地の人々の生活と環境 ・アジア州
2 学期	ヨーロッパ州の自然環境、文化、産業の特色を理解し、共通性と多様性を把握する。EU の背景と課題、人々の生活への影響を地域的特色と関連付け多面的に考察し表現する。アフリカ州では生活や産業の特色を理解し、ヨーロッパ諸国との文化・経済関係を歴史的背景を踏まえて理解し、課題の解決を主体的に追究する。 ・ヨーロッパ州 ・アフリカ州
	アメリカ合衆国の民族の多様性、農業、工業を理解し、産業や文化に関わる課題を多面的・多角的に考察し、南アメリカ州においては、ブラジルの経済成長に着目し、経済格差や環境破壊など問題解決策を主体的に追究し表現する。 ・北アメリカ州 ・南アメリカ州
3 学期	オセアニア州の自然環境と歴史、産業、多文化社会を理解し、ヨーロッパやアジアとの関係と、多文化社会に着目した特色や課題を多面的に考察する。また EdTech 教材を活用し 1 年間の総復習を行い、知識の定着をはかる。 ・オセアニア州

評価方法

定期考査（知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点）7 割と、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。評定は地理 2：歴史 1 の割合で合算し、社会科として算出する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。（日経電子版 forEducation を活用し、新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋）

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学 1 年	未来探究	社会	地理	2
教科書・教材				
『中学生の地理』（帝国書院） 『中学校社会科地図』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）

様々な国や地域に住む人々の生活への理解を深め、地理の基礎的な知識と情報を活用する能力を身につける。その知識を活用し、教科横断的な視点で物事を捉え表現できる力の向上を目指す。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	世界の地域構成を位置や分布に着目して理解し、課題を多面的に考察・解決する活動を通じて、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置を基に地域構成を理解し表現する能力を身に付ける。 ・世界の地域構成 ・日本の地域構成
	人々の生活が自然及び社会的条件と相互に影響すると理解し、世界各地の生活や環境の多様性や宗教分布を理解する。アジア州では、地域的特色を理解し急激な経済発展の理由を、人口増加や他地域との結びつきなどに着目し、多面的・多角的に考察する。 ・世界各地の人々の生活と環境 ・アジア州
2 学期	ヨーロッパ州の自然環境、文化、産業の特色を理解し、共通性と多様性を把握する。EU の背景と課題、人々の生活への影響を地域的特色と関連付け多面的に考察し表現する。アフリカ州では生活や産業の特色を理解し、歴史的背景を踏まえてヨーロッパ諸国との文化・経済関係を理解し、課題の解決を主体的に追究する。 ・ヨーロッパ州 ・アフリカ州
	アメリカ合衆国の民族の多様性、農業、工業を理解し、産業や文化に関わる課題を多面的・多角的に考察し、南アメリカ州においては、ブラジルの経済成長に着目し、経済格差や環境破壊など問題解決策を主体的に追究し表現する。 ・北アメリカ州 ・南アメリカ州
3 学期	オセアニア州の自然環境と歴史、産業、多文化社会を理解し、ヨーロッパやアジアとの関係を多面的に考察する。多文化社会に着目し、地域的特色や課題を多面的に考察する。また EdTech 教材を活用し 1 年間の総復習を行い、知識の定着をはかる。 ・オセアニア州

評価方法

定期考査（知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点）7 割と、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。評価は地理 2：歴史 1 の割合で合算し、社会科として算出する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。（日経電子版 forEducation を活用し、新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋）

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学 2 年	グローバル選抜探究	社会	地理	2
教科書・教材				
『中学生の地理』（帝国書院） 『中学校社会科地図』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）

中学 1 年で学んだ世界地理の知識を基礎として、日本の地理的特色を比較、理解する。また、日本の地域的な特色の変容や課題を身近な地域との関わりを通して、主体的に追究する。諸資料を適切に選択して読み取る力も身につけ、外部模擬試験にも十分に対応できる力をつける。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	日本の自然環境、人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信網の特色を理解し、地域区分を踏まえて多面的に考察・表現する力を身につける。 ・日本の地域的特色
	九州地方の地域的特色や課題を理解し、自然環境を中心に関連する事象や課題を考察する。また、地域の広がりや結び付き、対応に着目し、多面的にとらえ表現する。 ・九州地方
2 学期	中国・四国地方では交通や通信を中心とした地域的特色や課題を、近畿地方においては様々な環境を中心とした地域的特色や課題を学習し、両地域の広がりや結び付き、人々の対応に着目し、多面的に考察し表現する力の向上を目指す。 ・中国・四国地方 ・近畿地方
	中部地方では、地域的特色や課題を理解したうえで産業を中心とした事象や課題を、また関東地方では、人口・都市・村落を中心に、地域的特色や課題を多面的に考察し表現する技能の向上を目指す。 ・中部地方 ・関東地方
3 学期	東北地方の地域的特色や課題を理解し、生活・文化を中心に関連する事象や課題を考察し、北海道地方では、地域的特色から生じる課題、歴史を学習し、自然環境を中心に関連する事象や課題を考察し、表現する技能を身につける。 ・東北地方 ・北海道
評価方法	
定期考査知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。評定は地理 1：歴史 1 の割合で合算し社会科として算出する。	

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。(日経電子版 forEducation を活用し、新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋)

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学 2 年	未来探究	社会	地理	2
教科書・教材				
『中学生の地理』（帝国書院） 『中学校社会科地図』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）

中学 1 年で学んだ世界地理の知識を基礎として、日本の地理的特色を比較、理解する。また、日本の地域的な特色の変容や課題を身近な地域との関わりを通して、主体的に追究する。諸資料を適切に選択して読み取る力も身につける。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	日本の自然環境、人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信網の特色を理解し、地域区分を踏まえて多面的に考察・表現する力を身につける。 ・日本の地域的特色
	九州地方の地域的特色や課題を理解し、自然環境を中心に関連する事象や課題を考察する。また、地域の広がりや結び付き、対応に着目し、多面的にとらえ表現する。 ・九州地方
2 学期	中国・四国地方では交通や通信を中心とした地域的特色や課題を、近畿地方においては様々な環境を中心にした地域的特色や課題を学習し、両地域の広がりや結び付き、人々の対応に着目し、多面的に考察し表現する力の向上を目指す。 ・中国・四国地方 ・近畿地方
	中部地方では、地域的特色や課題を理解したうえで産業を中心とした事象や課題を、また関東地方では、人口・都市・村落を中心に、地域的特色や課題を多面的に考察し表現する技能を身につける。 ・中部地方 ・関東地方
3 学期	東北地方の地域的特色や課題を理解し、生活・文化を中心に関連する事象や課題を考察し、北海道地方では、地域的特色から生じる課題、歴史を学習し、自然環境を中心に関連する事象や課題を考察し、表現する技能の向上を目指す。 ・東北地方 ・北海道

評価方法

定期考査知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。評定は地理 1：歴史 1 の割合で合算し社会科として算出する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。（日経電子版 forEducation を活用し、新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋）

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学 1 年	グローバル選抜探究	社会	歴史	1
教科書・教材				
『中学生の歴史』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）

古代は文明・宗教の発生地域や環境に着目し、技術・制度の共通点を考察する。また、日本は東アジアの影響下で国家形成されたことを追究する。中世は武家社会の展開を理解し、歴史を多角的に学ぶ。EdTech 教材を活用して、外部模試に対応できる力を付ける。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	歴史上の人物や出来事と時代区分との関わりを適切に表現する力をつける。古代文明においては、農耕の広まりや生産技術の発展、他地域との交流が、政治や文化にどのような変化をもたらしたのかを考察する。 ・時代区分 ・人類の登場から文明の発生
	東アジアの文明の影響を受け、日本で国家が形成されたことを大観し、古代社会が変化していった様子を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・東アジアの中の倭（古墳）
2 学期	律令国家の確立に至るまでの過程を理解し、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられたことを理解し、知識の定着を図る。 ・中国にならった国家づくり（飛鳥）
	政治の実権が天皇から貴族に移行することを理解し、平安時代の社会・文化の特色を、諸資料から適切に読み取り、まとめる力の向上を目指す。 ・展開する天皇・貴族の政治（平安）
3 学期	武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流などに着目して、出来事を相互に関連付けるなど、中世社会の変化の様子を多面的・多角的に考察する。1 年生範囲の復習を EdTech 教材で行い、正確な知識の定着を図る。 ・武士の世の始まり（中世：鎌倉）

評価方法

定期考査（知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点）7 割と、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。評定は地理 2：歴史 1 の割合で合算し、社会科として算出する。

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学 1 年	未来探究	社会	歴史	1
教科書・教材				
『中学生の歴史』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）	
古代は文明・宗教の発生地域や環境に着目し、技術・制度の共通点を考察する。また、日本は東アジアの影響下で国家形成されたことを追究する。中世は武家社会の展開を理解し、歴史を多角的に学ぶ。EdTech 教材を活用して、基本的な知識の定着を図る。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	歴史上の人物や出来事と時代区分との関わりを適切に表現する力をつける。古代文明においては、農耕の広まりや生産技術の発展、他地域との交流が、政治や文化にどのような変化をもたらしたのかを考察する。 ・時代区分 ・人類の登場から文明の発生
	東アジアの文明の影響を受け、日本で国家が形成されたことを大観し、古代社会が変化していった様子を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・東アジアの中の倭（古墳）
2 学期	律令国家の確立に至るまでの過程を理解し、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられたことを理解し、知識の定着を図る。 ・中国にならった国家づくり（飛鳥）
	政治の実権が天皇から貴族に移行することを理解し、平安時代の社会・文化の特色を、諸資料から適切に読み取り、まとめる力を身につける。 ・展開する天皇・貴族の政治（平安）
3 学期	武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流などに着目して、出来事を相互に関連付けるなど、中世社会の変化の様子を多面的・多角的に考察する。1 年生範囲の復習を EdTech 教材で行い、正確な知識の定着を図る。 ・武士の世の始まり（中世：鎌倉）
評価方法	
定期考査（知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点）7 割と、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。評価は地理 2：歴史 1 の割合で合算し、社会科として算出する。	

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学2年	グローバル選抜探究	社会	歴史	1
教科書・教材				
『中学生の歴史』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）

中世以降に発展する産業・増大する民衆の力など社会の変化を大観し、近世では、ヨーロッパ世界の「近代化」の影響を受け、近代国家として成立していったことを理解する。時代ごとの特徴や背景を考察し、現代の日本との関連性を探究する。EdTech教材を活用して、外部模試に対応できる力を付ける。

授業の進め方（年間指導計画）

1学期	武士の政治の展開とともに、鎌倉時代の文化の特色を、具体的な文化財とその特徴を基にして理解する。ユーラシアの変化の中で起こった元寇など、東アジア世界と密接に関わっていることを考察し、その影響を読み取る。 ・武家政権の内と外（鎌倉）
	室町時代に農業や商工業が発達した理由や、民衆の成長が社会に与えた影響を、生産力の高まりと交通の発達に着目して考察する。またヨーロッパ人来航の背景と影響 ・人々の結びつきが強まる社会（室町） ・大航海によって結びつく世界（近世）
2学期	織田・豊臣による統一事業、武将や豪商などの生活文化の展開など近世社会の基礎が作られたことを理解する。また、内政面では幕藩体制の確立、対外面については禁教と貿易の独占が、国内での諸産業の発達につながる事を理解し、近世の社会の変化の様子を考察する。 ・戦乱から全国統一へ（戦国） ・天下泰平の世の中（江戸初期）
	貨幣経済の農村への広がりや自然災害などによる都市や農村の変化から、近世社会の基礎が動揺していくことを理解し、それに対する幕府の政治改革を整理する。また、欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きを関連付け、日本への影響を考察する。 ・社会の変化と幕府の対策（江戸中期） ・欧米諸国における「近代化」（近代）
3学期	欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き、明治維新と近代国家の形成を理解する。また、工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、近代化がもたらした文化への影響を考察し、時代の特徴を表現できる。 ・明治政府による「近代化」の始まり（明治）

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。評定は地理 1：歴史 1 の割合で合算し社会科として算出する。

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学 2 年	未来探究	社会	歴史	2
教科書・教材				
『中学生の歴史』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）	
中世以降、産業の発展・増大する民衆の力・戦乱が広まりなど社会の変化を大観し、近世では、ヨーロッパ世界の「近代化」の影響を受け近代国家としての基盤が整えられたことを理解する。時代ごとの特徴や背景を考察し、現代の日本との関連性を探求する。EdTech 教材を活用して、基本的な知識の定着を図る。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	武士の政治の展開とともに、鎌倉時代の文化の特色を、具体的な文化財とその特徴を基にして理解する。ユーラシアの変化の中で起こった元寇など、東アジア世界と密接に関わっていることを考察し、その影響を読み取る。 ・武家政権の内と外（鎌倉） 室町時代に農業や商工業が発達した理由や、民衆の成長が社会に与えた影響を、生産力の高まりと交通の発達に着目して考察する。またヨーロッパ人来航の背景と影響 ・人々の結びつきが強まる社会（室町） ・大航海によって結びつく世界（近世）
2 学期	織田・豊臣による統一事業、武将や豪商などの生活文化の展開など近世社会の基礎が作られたことを理解する。また、内政面では幕藩体制の確立、対外面については禁教と貿易の独占が、国内での諸産業の発達につながる事を理解し、近世の社会の変化の様子を考察する。 ・戦乱から全国統一へ（戦国） ・天下泰平の世の中（江戸初期） 貨幣経済の農村への広がりや自然災害などによる都市や農村の変化から、近世社会の基礎が動揺していくことを理解し、それに対する幕府の政治改革を整理する。また、欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きを関連付け、日本への影響を考察する。 ・社会の変化と幕府の対策（江戸中期） ・欧米諸国における「近代化」（近代）
3 学期	欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き、明治維新と近代国家の形成を理解する。また、工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、近代化がもたらした文化への影響を考察し、時代の特色を表現できる。 ・明治政府による「近代化」の始まり（明治）
評価方法	
定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。評価は地理 1：歴史 1 の割合で合算し社会科として算出する。	

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学 3 年	グローバル選抜探究	社会	歴史	1
教科書・教材				
『中学生の歴史』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）

明治以降の日本は、近代国家として国際的な地位を向上させ、政治体制だけでなく国民の生活も大きく変化した。二度の世界大戦を経て、時代の特徴だけでなく、グローバル化の影響など現在の国際社会にも関連する課題にも注目し、公民分野との関連性を理解し、探求した内容を的確に表現する力も身につける。EdTech 教材を用いて通史全体の知識を定着させ、来年度の歴史総合へつなげる。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	欧米諸国と対等の関係を築くための条約改正が実現し、日清・日露戦争を経て、日本の国際的地位が向上したことを理解する。工業化の進展が国民生活や文化に与えた影響について、その両面性を考察し、現在の暮らしにも共通点を見出す。 ・近代国家への歩み ・帝国主義と日本（近代）
	第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きを背景に、第一次世界大戦前後の国際情勢および日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解する。EdTech 教材を活用して復習の習慣化を促す。 ・第一次世界大戦と民族独立の動き
2 学期	第一次世界大戦後の世界と日本での民主主義の高まり、国際情勢と大衆の出現を理解する。また、世界恐慌が世界各国、および日本の社会や経済に与えた影響を各国の国力と植民地に着目して考察する。 ・高まるデモクラシーの意識 ・戦争に向かう世論（昭和）
	第二次世界大戦中の日本の政治・外交、戦時下の国民の生活などを基に、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。また、諸資料から戦時中のさまざまな情報を効果的に調べ、表現する。 ・第二次世界大戦の惨禍 ・敗戦から立ち直る日本（戦後）
3 学期	第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きのなかで新しい日本の建設が進められたことを理解する。これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識を持って探究する。 ・世界の多極化と日本の成長 ・これからの日本と世界（現代）
評価方法	
定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。評定は公民 3：歴史 1 の割合で合算し社会科として算出する。	

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学 3 年	グローバル選抜探究	社会	歴史	1
教科書・教材				
『中学生の歴史』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）

明治以降の日本は、近代国家として国際的な地位を向上させ、政治体制だけでなく国民の生活も大きく変化した。二度の世界大戦を経て、時代の特徴だけでなく、グローバル化の影響など現在の国際社会にも関連する課題にも注目し、公民分野との関連性を理解し、探求した内容を的確に表現する力も身につける。EdTech 教材を用いて通史全体の知識を定着させ、来年度の歴史総合へつなげる。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	欧米諸国と対等の関係を築くための条約改正が実現し、日清・日露戦争を経て、日本の国際的地位が向上したことを理解する。工業化の進展が国民生活や文化に与えた影響について、その両面性を考察し、現在の暮らしにも共通点を見出す。 ・近代国家への歩み ・帝国主義と日本（近代）
	第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きを背景に、第一次世界大戦前後の国際情勢および日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解する。EdTech 教材を活用して復習の習慣化を促す。 ・第一次世界大戦と民族独立の動き
2 学期	第一次世界大戦後の世界と日本での民主主義の高まり、国際情勢と大衆の出現を理解する。また、世界恐慌が世界各国、および日本の社会や経済に与えた影響を各国の国力と植民地に着目して考察する。 ・高まるデモクラシーの意識 ・戦争に向かう世論（昭和）
	第二次世界大戦中の日本の政治・外交、戦時下の国民の生活などを基に、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。また、諸資料から戦時中のさまざまな情報を効果的に調べ、表現する。EdTech 教材で自発的な学習を促す。 ・第二次世界大戦の惨禍 ・敗戦から立ち直る日本（戦後）
3 学期	第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きのなかで新しい日本の建設が進められたことを理解する。これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識を持って探究する。 ・世界の多極化と日本の成長 ・これからの日本と世界（現代）
評価方法	
定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。評定は公民 3：歴史 1 の割合で合算し社会科として算出する。	

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学 3 年	グローバル選抜探究	社会	公民	3
教科書・教材				
『新しい社会 公民』（東京書籍）				

授業のねらい（年間指導目標）

よりよい社会の構築のため、課題解決に向けて「主権者」としての選択・判断をする際に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につける。政治・法・経済など各分野に関わる多様な視点から日本の抱える課題を考察し、課題解決の在り方をより公正に判断することを可能とする。EdTech教材を用いて公民分野で学習した内容の総復習を行い、高校公民科での学習に備える。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	少子高齢化、情報化、グローバル化などの現代日本の課題を理解する。考え方の基礎を身につけ、現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について考察する。 ・現代社会の特色 ・現代社会の見方や考え方
	民主主義国家かつ法治国家である我が国の政治が、日本国憲法に基づいて行われていることや憲法の基本的原則について理解する。現代社会に見られる諸問題に対し、解決に向けて考察する。EdTech 教材を用いて 1 学期で学んだ基礎知識の定着を図る。 ・人権と日本国憲法 ・これからの人権保障
2 学期	議会制民主主義の意義について理解し、民主政治の推進、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について学習し、主体的に政治に参加する意識を培う。 ・現代の民主政治 ・国の政治の仕組み
	身近な消費生活を中心に、経済活動の意義と市場経済の考え方を理解する。また、雇用と労働条件、消費者保護や環境保全などの課題解決を視野に考察する。EdTech 教材を活用して経済用語の理解を促し、基礎知識の定着を図る。 ・消費生活と市場経済 ・市場経済の仕組みと金融
3 学期	財政及び租税の意義、国民の納税の義務、国や地方公共団体が果たす役割について理解する。また、世界平和における課題の解決に向けて、国際社会における我が国の役割を考察する。EdTech 教材を用いて公民分野で学習した内容の総復習を行う。 ・財政と国民の福祉 ・国際社会の仕組み

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。評定は公民 3 : 歴史 1 の割合で合算し社会科として算出する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。(日経電子版 forEducation を活用し、新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋)

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学 3 年	未来探究	社会	公民	3
教科書・教材				
『新しい社会 公民』（東京書籍）				

授業のねらい（年間指導目標）	
よりよい社会の構築のため、課題解決に向けて「主権者」としての選択・判断をする際に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につける。政治・法・経済など各分野に関わる多様な視点から日本の抱える課題を考察し、課題解決の在り方をより公正に判断することを可能とする。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	少子高齢化、情報化、グローバル化などの現代日本の課題を理解する。考え方の基礎を身につけ、現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について考察する。 ・現代社会の特色 ・現代社会の見方や考え方 民主主義国家かつ法治国家である我が国の政治が、日本国憲法に基づいて行われていることや憲法の基本的原則について理解する。現代社会に見られる諸問題に対し、解決に向けて考察する。EdTech 教材を用いて 1 学期で学んだ基礎知識の定着を図る。 ・人権と日本国憲法 ・これからの人権保障
2 学期	議会制民主主義の意義について理解し、民主政治の推進、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について学習し、主体的に政治に参加する意識を培う。 ・現代の民主政治 ・国の政治の仕組み 身近な消費生活を中心に、経済活動の意義と市場経済の考え方を理解する。また、雇用と労働条件、消費者保護や環境保全などの課題解決を視野に考察する。EdTech 教材を活用して経済用語の理解を促し、基礎知識の定着を図る。 ・消費生活と市場経済 ・市場経済の仕組みと金融
3 学期	財政及び租税の意義、国民の納税の義務、国や地方公共団体が果たす役割について理解する。また、世界平和における課題の解決に向けて、国際社会における我が国の役割を考察する。EdTech 教材を用いて公民分野で学習した内容の総復習を行う。 ・財政と国民の福祉 ・国際社会の仕組み
評価方法	
定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。評定は公民 3：歴史 1 の割合で合算し社会科として算出する。	
備考	
月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。（日経電子版 forEducation を活用し、新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋）	

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 1 年	グローバル選抜探究	地理歴史	歴史総合	2
教科書・教材				
『歴史総合 近代から現代へ』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）	
世界と其中的の日本を相互的な視点で捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。歴史に関わる事象の意味や意義を多面的・多角的に考察することで課題を把握する力を養う。また、主体的で対話的な探究型学習においては、過去の文献や資料を収集・分析し、歴史的な出来事や人物に関する理解を深める。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	18 世紀後半以降の欧米や日本の立憲体制と国民国家の形成を理解し、諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べる技能を身に付ける。 ・アメリカ独立革命とフランス革命 ・明治維新と諸改革 列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解し、諸資料を基に歴史的事象の意義や課題について議論する力を養う。 ・条約改正と日清戦争 ・世界分割と列強の対立
2 学期	第一次世界大戦の推移と影響について、日本と他地域の動向を比較しながら大戦の特徴、日本とアジア地域の関係や国際協調体制の特徴などを多角的に考察する。 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・アジア・アフリカ地域の民族運動 世界恐慌が波及した要因を追究し、ファシズム体制の特徴をまとめ、国内外への影響を理解する。 ・世界恐慌の発生 ・ファシズムの台頭
3 学期	第二次世界大戦の展開と大戦が世界に与えた影響に着目し、大戦後の日本の国際社会への復帰と現代的な諸課題の形成に関わる大戦後の国際秩序の変化を理解する。 ・日本の恐慌と満州事変 ・第二次世界大戦と太平洋戦争
評価方法	
定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。	
備考	
月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。(新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋)	

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 1 年	選抜	地理歴史	歴史総合	2
教科書・教材				
『歴史総合 近代から現代へ』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）

世界と其中的の日本を相互的な視点で捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。歴史に関わる事象の意味や意義を多面的・多角的に考察することで課題を把握する力を養う。また、主体的で対話的な探究型学習においては、過去の文献や資料を収集・分析し、歴史的な出来事や人物に関する理解を深める。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	18 世紀後半以降の欧米や日本の立憲体制と国民国家の形成を理解し、諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べる技能を身に付ける。 ・アメリカ独立革命とフランス革命 ・明治維新と諸改革
	列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解し、諸資料を基に歴史的事象の意義や課題について議論する力を養う。 ・条約改正と日清戦争 ・世界分割と列強の対立
2 学期	第一次世界大戦の推移と影響について、日本と他地域の動向を比較しながら大戦の特徴、日本とアジア地域の関係や国際協調体制の特徴などを多角的に考察する。 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・アジア・アフリカ地域の民族運動
	世界恐慌が波及した要因を追究し、ファシズム体制の特徴をまとめ、国内外への影響を理解する。 ・世界恐慌の発生 ・ファシズムの台頭
3 学期	第二次世界大戦の展開と大戦が世界に与えた影響に着目し、大戦後の日本の国際社会への復帰と現代的な諸課題の形成に関わる大戦後の国際秩序の変化を理解する。 ・日本の恐慌と満州事変 ・第二次世界大戦と太平洋戦争

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。(新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋)

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 1 年	未来探究	社会	歴史総合	2
教科書・教材				
『歴史総合 近代から現代へ』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）

世界と其中的の日本を相互的な視点で捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。歴史に関わる事象の意味や意義を多面的・多角的に考察することで課題を把握する力を養う。また、過去の文献や資料を収集・分析し、歴史的な出来事や人物に関する理解を深める。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	18 世紀後半以降の欧米や日本の立憲体制と国民国家の形成を理解し、諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べる技能を身に付ける。 ・アメリカ独立革命とフランス革命 ・明治維新と諸改革
	列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解し、諸資料を基に歴史的事象の意義や課題について議論する力を養う。 ・条約改正と日清戦争 ・世界分割と列強の対立
2 学期	第一次世界大戦の推移と影響について、日本と他地域の動向を比較しながら大戦の特徴、日本とアジア地域の関係や国際協調体制の特徴などを多角的に考察する。 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・アジア・アフリカ地域の民族運動
	世界恐慌が波及した要因を追究し、ファシズム体制の特徴をまとめ、国内外への影響を理解する。 ・世界恐慌の発生 ・ファシズムの台頭
3 学期	第二次世界大戦の展開と大戦が世界に与えた影響に着目し、大戦後の日本の国際社会への復帰と現代的な諸課題の形成に関わる大戦後の国際秩序の変化を理解する。 ・日本の恐慌と満州事変 ・第二次世界大戦と太平洋戦争

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

備 考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。(新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋)

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 2 年	グローバル選抜探究	公民	公共	3
教科書・教材				
『公共』（実教出版）				

授業のねらい（年間指導目標）

現実社会の諸課題の解決に向けて、公正に判断する力や社会参画を視野に入れながら構想する力を養う。現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を育み、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。日経電子版 forEducation を用いて、グラフ・図などの読み解きや時事問題から現代社会を探究する姿勢を養う。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であることを学習する。伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成する。 ・ 青年期とは ・ 人間と幸福
	個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について学習し、憲法を中心として、法や規範に基づいて利害を公平・公正に調整し、権利や自由が保障され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ・ 民主政治の成立 ・ 日本国憲法の成立
2 学期	日本の政治機構を学習した上で、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することを理解する。 ・ 政治機構 ・ 世論と政治参加
	現実社会の課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して、活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて学ぶ。 ・ 市場のしくみ ・ 金融の役割
3 学期	今後の日本経済がどのような豊かさを目指していくべきかについて主体的に追究して、よりよい社会の実現を視野に日本経済の特質を学習する。 ・ 戦後日本経済の成長と課題 ・ 社会保障の役割

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。（日経電子版 forEducation を活用し、新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋）

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 2 年	選抜	公民	公共	3
教科書・教材				
『公共』（実教出版）				

授業のねらい（年間指導目標）

現実社会の諸課題の解決に向けて、公正に判断する力や社会参画を視野に入れながら構想する力を養う。現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を育み、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。日経電子版 forEducation を用いて、グラフ・図などの読み解きや時事問題から現代社会を探究する姿勢を養う。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であることを学習する。伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成する。 ・ 青年期とは ・ 人間と幸福
	個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について学習し、憲法を中心として、法や規範に基づいて利害を公平・公正に調整し、権利や自由が保障され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ・ 民主政治の成立 ・ 日本国憲法の成立
2 学期	日本の政治機構を学習した上で、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することを理解する。 ・ 政治機構 ・ 世論と政治参加
	現実社会の課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して、活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて学ぶ。 ・ 市場のしくみ ・ 金融の役割
3 学期	今後の日本経済がどのような豊かさを目指していくべきかについて主体的に追究して、よりよい社会の実現を視野に日本経済の特質を学習する。 ・ 戦後日本経済の成長と課題 ・ 社会保障の役割

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。（日経電子版 forEducation を活用し、新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋）

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 2 年	未来探究	公民	公共	3
教科書・教材				
『公共』（実教出版）				

授業のねらい（年間指導目標）

現実社会の諸課題の解決に向けて、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を育み、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。日経電子版 forEducation を用いて、グラフ・図などの読み解きや時事問題から現代社会を探究する姿勢を養う。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であることを学習する。伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成する。 ・ 青年期とは ・ 人間と幸福
	個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について学習し、憲法を中心として、法や規範に基づいて利害を公平・公正に調整し、権利や自由が保障され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ・ 民主政治の成立 ・ 日本国憲法の成立
2 学期	日本の政治機構を学習した上で、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することを理解する。 ・ 政治機構 ・ 世論と政治参加
	現実社会の課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して、活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて学ぶ。 ・ 市場のしくみ ・ 金融の役割
3 学期	今後の日本経済がどのような豊かさを目指していくべきかについて主体的に追究して、よりよい社会の実現を視野に日本経済の特質を学習する。 ・ 戦後日本経済の成長と課題 ・ 社会保障の役割

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。（日経電子版 forEducation を活用し、新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋）

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 2 年	グローバル選抜探究	社会	地理総合	2
教科書・教材				
『高校生の地理総合』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）

現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。学習進度に応じて EdTech 教材を活用して復習を行い、大学入試に必要な基礎学力の養成を行う。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	さまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、国内や国家間の結び付きなどについて理解させ、地理情報システムなどを用いて、情報を収集し、表現する技能を身に付ける。また、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する力を身につける。 ・地図や地理情報システムと現代社会 ・結びつきを深める現代世界 ・世界の地形や気候 人々の生活文化が地形や気候などの地理的環境から互いに影響し合い、多様性を持つことや、地理的環境の変化によって変容することなどを理解する。東アジアについては、日本とのこれまでのつながりを学び、これからのあり方について模索する。 ・生活文化の多様性（世界の気候・産業・文化） ・東アジア
2 学期	世界各地域の生活圏の地理的な課題について、各地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくり、日本との共通点や相違点などに着目する。また、課題解決に求められる取り組みなどを多面的、多角的に考察、構想し表現する。 ・多様な生活文化と地理的環境 （東南・中央・西アジア、南北アフリカ） 世界各地域の生活圏の地理的な課題について、各地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくり、日本との共通点や相違点などに着目する。また、課題解決に求められる取り組みなどを多面的、多角的に考察、構想し表現する。 ・多様な生活文化と地理的環境 （ヨーロッパ・ロシア・アメリカ・オセアニア）
3 学期	世界各地の地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などをもとに、グローバルな視点で共通する傾向や関連性を探る。また、日本の自然災害の対応の具体例をあげ、地形図やハザードマップを読図し、日常生活と結び付いた地理的スキルを身に付け、同時に防災意識を高める。 ・複雑に絡み合う地球的課題 ・自然環境と防災

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校2年	選抜	社会	地理総合	2
教科書・教材				
『高校生の地理総合』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）

現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。学習進度に応じてEdTech教材を活用して復習を行い、大学入試に必要な基礎学力の養成を行う。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	さまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、国内や国家間の結び付きなどについて理解させ、地理情報システムなどを用いて、情報を収集し、表現する技能を身に付ける。また、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する力を身につける。 ・地図や地理情報システムと現代社会 ・結びつきを深める現代世界 ・世界の地形や気候 人々の生活文化が地形や気候などの地理的環境から互いに影響し合い、多様性を持つことや、地理的環境の変化によって変容することなどを理解する。東アジアについては、日本とのこれまでのつながりを学び、これからのあり方について模索する。 ・生活文化の多様性（世界の気候・産業・文化） ・東アジア
2 学期	世界各地域の生活圏の地理的な課題について、各地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくり、日本との共通点や相違点などに着目する。また、課題解決に求められる取り組みなどを多面的、多角的に考察、構想し表現する。 ・多様な生活文化と地理的環境 （東南・中央・西アジア、南北アフリカ） 世界各地域の生活圏の地理的な課題について、各地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくり、日本との共通点や相違点などに着目する。また、課題解決に求められる取り組みなどを多面的、多角的に考察、構想し表現する。 ・多様な生活文化と地理的環境 （ヨーロッパ・ロシア・アメリカ・オセアニア）
3 学期	世界各地の地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などをもとに、グローバルな視点で共通する傾向や関連性を探る。また、日本の自然災害の対応の具体例をあげ、地形図やハザードマップを読図し、日常生活と結び付いた地理的スキルを身に付け、同時に防災意識を高める。 ・複雑に絡み合う地球的課題 ・自然環境と防災

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 2 年	未来探究	社会	地理総合	2
教科書・教材				
『高校生の地理総合』（帝国書院）				

授業のねらい（年間指導目標）

現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。学習進度に応じて EdTech 教材を活用して復習を行う。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	読図などを基に、方位や時差、国内や国家間の結び付きなどについて理解させ、地理情報システムなどから情報を収集し、まとめ、表現する技能を身に付ける。また、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する力を身につける。 ・地図や地理情報システムと現代社会 ・結びつきを深める現代世界 ・世界の地形や気候生活・文化が地形や気候など地理的環境から互いに影響し、多様性を持つことや、地理的環境の変化によって変容することなどを理解する。東アジアについては、日本とのこれまでのつながりを学び、これからのあり方について模索する。 ・生活文化の多様性（世界の気候・産業・文化） ・東アジア
	2 学期 世界各地域の生活圏の地理的な課題について、各地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくり、日本との共通点や相違点などに着目する。また、課題解決に求められる取り組みなどを多面的、多角的に考察、構想し表現する。 ・多様な生活文化と地理的環境 （東南・中央・西アジア、南北アフリカ） 世界各地域の生活圏の地理的な課題について、各地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくり、日本との共通点や相違点などに着目する。また、課題解決に求められる取り組みなどを多面的、多角的に考察、構想し表現する。 ・多様な生活文化と地理的環境 （ヨーロッパ・ロシア・アメリカ・オセアニア）
3 学期	世界各地の地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などをもとに、グローバルな視点で共通する傾向や関連性を探る。また、日本の自然災害の対応の具体例をあげ、地形図やハザードマップを読図し、日常生活と結び付いた地理的技能を身に付け、同時に防災意識を高める。 ・複雑に絡み合う地球的課題 ・自然環境と防災

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 2 年	選択	社会	日本史探究	2
教科書・教材				
『日本史探究 詳説 日本史』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）

日本の歴史の展開にかかわる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解し、課題を追究、解決する力を育む。諸資料から様々な情報を調べ、分析する力を身につける。EdTech 教材を予習・復習に活用し、通史理解の充足を図る。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	自然環境と人間の生活、東アジアとの関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化に着目し、環境への適応と社会・文化の形成過程について多角的に考察する。国家と古墳文化の形成をもとに、原始から古代の政治・経済・社会・文化の変容や社会的影響を理解する。 ・日本文化のあけぼの（縄文・弥生） ・古墳とヤマト政権（古墳・飛鳥）
	律令体制の成立過程や諸文化の形成から、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化の関連性などに着目させ、様々な事象の意義や歴史的背景を探る。また、貴族政治の展開、地方支配の変化や武士の出現などから、古代社会がどのように変容し中世社会が成立するのか予測し、その影響を探究する。 ・律令国家の形成（奈良） ・貴族政治の展開（平安）
2 学期	貴族政治の変容と武士の政治進出、そして土地支配の変容により、古代から中世へ時代が転換していく流れを理解する。また、歴史資料を通して適切な情報を収集し、自らの力で分析し、整理する力を身につける。 ・院政と武士の躍進（平氏政権） ・武家政権の成立（鎌倉）
	武家政権の展開と変容、日明貿易の展開や琉球王国の成立、村落や都市の自立からみえる地域権力の成長などを理解する。国家・社会・東アジア情勢の変容について、歴史的事象の意味や意義、関係性を多角的に考察し、近世へと転換する歴史的環境を予測する。 ・武士社会の成長（室町） ・近世の幕開け（織豊政権）
3 学期	織豊政権との類似と相違やアジア国際情勢の変化などに着目し、幕藩体制の確立について考察する。法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上による産業や文化の発展などをもとに、近世社会の特色を理解する。 ・幕藩体制の成立と展開（江戸時代初期、幕政の安定）

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題プリント・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。（新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋）

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 2 年	選択	地理歴史	世界史探究	2
教科書・教材				
『詳説 世界史』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）

「歴史総合」の学習で身に付けた知識を基に、世界の歴史の枠組みとグローバル化する国際社会で主体的に生きる資質・能力を育成することを目標とする。学習進度に応じて EdTech 教材を活用し、復習を行い、大学入試に必要な基礎学力を養成する

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	オリエントの風土や気候が異なる地域が混在していたアジアなどの文明の歴史的特質を、地理的な概念を押さえながら学習する。 ・文明の成立と古代文明の特質（古代オリエント、中国文明）
	遊牧国家の興亡がユーラシア大陸の東西にもたらした変動や、統一国家の出現が文化に与えた影響を理解する。 ・中央ユーラシアと東アジア世界（秦・漢帝国、唐の勢力圏） ・南アジア世界の展開（古代インド、ヒンドゥー文化）
2 学期	ギリシア文明が近代ヨーロッパにもたらした影響を多角的に考察し、ローマ共和政の特徴をギリシア民主政と比較しながら学習する。 ・西アジアの国家形成（イラン文明） ・地中海周辺为国家形成（ギリシア人都市国家、ローマ帝国）
	イスラーム諸王朝の成立背景とその統治の特徴を理解し、イスラーム文化の成立過程を学び、イスラーム政権の多極化が社会に与えた影響を考察する。 ・イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 ・イスラーム教の伝播と西アジアの動向
3 学期	西ヨーロッパの封建社会が解体した背景や、ビザンツ帝国の衰退要因を多面的・多角的に考察し、図像資料をもとにヨーロッパの文化的特徴を理解する。 ・ヨーロッパ世界の変容と展開 ・中世ヨーロッパ文化

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。(新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋)

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 3 年	選択	地理歴史	日本史探究	2
教科書・教材				
『日本史探究 詳説 日本史』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）

高 2 に続き日本の歴史を地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に理解し、課題を追究・解決する力を育む。幕末期から現代までの歴史を多面的に考察し、複数の資料を活用して理解を深め、学習進度に応じて EdTech 教材を活用して復習を行い、大学入試に必要な基礎学力の養成を行う。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	幕政の動揺と諸藩の動向、近世の庶民の生活と文化の特色など、近代化の基盤の形成に関して理解する。欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化や、対外政策の変容、開国までの流れを多面的・多角的に考察する。 ・幕政の改革 ・幕府の衰退と近代への道 ・開国と幕末の動乱
	対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の転換を通観する。立憲体制への移行など国民国家の形成が促されたことを理解する。 ・幕府の滅亡と新政府の発足 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立
2 学期	大正期の対外政策や戦争の影響に着目し、近代の政治の展開と国際的地位の確立について考察する。事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し大衆社会の形成や、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解する。 ・日清・日露戦争 ・第一次世界大戦 ・市民生活の変容と大衆文化
	恐慌と立憲政治の動揺、国際関係と軍部の台頭など、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活を理解する。また、第二次世界大戦後の政治・社会の展開や国民生活の変容から、再出発した日本の動向について考察する。 ・恐慌と軍部の台頭 ・第二次世界大戦 ・占領下の日本
3 学期	戦後の政治や経済の復興と成長、第二次世界大戦後の国際社会での日本の役割を考察し、現代の政治や社会の枠組を理解する。グローバル化の影響や現在日本が直面している課題に対し、歴史的なものの見方・考え方に基づいて多面的・多角的に考察する。 ・高度成長の時代 ・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本社会の変容

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。(新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋)

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 3 年	選択	地理歴史	世界史探究	2
教科書・教材				
『詳説 世界史』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）

課題を追究する活動を通じて、世界の歴史の枠組みとグローバル化する国際社会で主体的に生きる資質・能力を育成し、諸資料から必要な情報を読み取り、適切な解答を導く対応力を身に付ける。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	モンゴル帝国解体後のアジア各地の状況を理解し、ヨーロッパの人々の進出がもたらした影響と変化を理解する。 ・大交易・大交流の時代 ・アジア諸帝国の繁栄
	ルネサンスの担い手や動機を学び、宗教改革の世界史的意義を理解しながら、主権国家体制の成立過程を多面的・多角的に考察する。 ・近世ヨーロッパ世界の動向（ルネサンス、宗教改革） ・主権国家体制の成立
2 学期	イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響を学び、16 世紀に始まった「世界の一体化」とイギリス産業革命との関係を理解する。 ・産業革命と環大西洋革命 ・フランス革命とナポレオンの支配
	19 世紀イギリスの政治変革の特徴を大陸諸国と比較し、ウィーン体制を動揺させた要因を多角的に考察する。 ・イギリスの優位と欧米国民国家の形成 ・列強体制の動揺とヨーロッパの再編成
3 学期	オスマン帝国、イラン、アフガニスタンにおける動揺や改革の推移を、ヨーロッパ列強との関係とともに理解する。 ・アジア諸地域の動揺 ・東アジアの激動

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 3 年	選択	地理歴史	探究演習 日本史	2
教科書・教材				
『日本史探究 詳説 日本史』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）	
既習範囲の復習と近代から現代の通史を学習し、古代から現代に至る歴史の連続性を理解させる。現代的な課題を把握し、歴史的な背景や要因を多面的に考察する。また、受験に必要な知識を身に付け、資料（史料文・グラフ・図版・地図）を組み合わせた演習問題に取り組むことで解答力を高める。	
授業の進め方（年間指導計画）	
1 学期	日本史探究の既習事項を中心に、用語の確認だけでなく、史資料やグラフを読み解く基本的な力が定着しているか、問題演習を通じて確認する。模試偏差値 50 を基準として、教材を選択する。 ・ 原始古代～院政 文献資料の中でも重要度の高いものが多い時代を扱い、史資料中の用語や背景を文章で説明できる表現力を身につける。また、東アジアとの関係も深いため、世界的知識も踏まえて、地図や写真から読み解く力の向上を目指す。 ・ 鎌倉時代～戦国時代
2 学期	近世では、政治・社会面での経緯と変遷を正確に理解することが重要となる。演習に取り組みながら知識を整理し、その背景をまとめ、他者と共有して定着度を高める。 ・ 江戸時代～三大改革 対外的な戦争が増える近代は、国内情勢と世界情勢のつながりを意識させ、出来事の背景と結果、その後の影響を軸に理解できているか、確認する。資料問題の中でも、グラフや表を用いる問題も増えるため、表題や凡例・リード文などからの確に情報を読み取る力の向上を目指す。 ・ 幕末維新～太平洋戦争～現代
3 学期	大学入学共通テストなどに対応した史資料から読み取り判断する問題や、私立大学入試問題など実践的な問題演習に取り組む。 ・ 通史 （テーマ史）
評価方法	
定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。	

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 3 年	選択	地理歴史	探究演習世界史	2
教科書・教材				
『詳説 世界史』（山川出版社）				

授業のねらい（年間指導目標）

近代から現代の通史を学び、古代から現代に至る歴史の連続性を理解する。現代の課題を把握し、歴史的背景や要因を多面的に考察する。また、受験に必要な知識を身に付け、資料（史料文・グラフ・図版・地図）を組み合わせた演習問題に取り組むことで解答力を高める。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	第 2 次産業革命が社会に与えた影響や、帝国主義時代の欧米列強の国内情勢および植民地拡大の経緯を学ぶ。 ・ 帝国主義とアジアの民族運動 ・ 列強の世界分割と列強体制の二分化
	歴史上初めての世界大戦が勃発した原因を多面的・多角的に考察し、戦時外交および総力戦の特徴を理解する。大戦後に形成された新たな国際秩序の経緯を学ぶ。 ・ 第一次世界大戦と世界の変容
2 学期	世界恐慌が起こった背景や影響を理解し、ヴェルサイユ体制が崩壊した経緯やファシズム諸国の動向について学習する。 ・ 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 ・ 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成
	米ソそれぞれの同盟網の広がり、自立化を追求するアジア・アフリカの新興諸国の行動を理解する。 ・ 冷戦と第三世界の台頭
3 学期	現代の諸問題について、諸資料を効果的に活用しながら解決策を考察する。基礎知識の復習や正誤判断の演習に加え、資料や統計などの複数の素材から情報を読み取り、習得した知識と結びつけて総合的に判断する問題に取り組む。 ・ 冷戦の終結と今日の世界 ・ 入試問題対策、問題演習

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 3 年	選択	公民	政治・経済	2
教科書・教材				
『詳述 政治・経済』（実務教育出版）				

授業のねらい（年間指導目標）

政治や経済に関する事象の相互関係や本質を探究し、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。諸資料から社会の在り方に関わる情報を効果的に調べる技能を身に付ける。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	政治参加や公正な世論の形成、地方自治などを通じて、社会が憲法の下で意見や利害の対立を調整し、合意を形成して築かれることを学ぶ。 ・ 日本国憲法の基本原理 ・ 日本の政治機構
	公正かつ自由な経済活動が資源の効率的配分につながることや、市場経済を支える政府の役割を学び、活発な経済活動と個人の尊重の両立の重要性を理解する。 ・ 経済社会の変容 ・ 現代経済のしくみ
2 学期	現実社会の事柄や課題を基に、国際法の意義や国際貢献を含む国際社会における我が国の役割を理解する。 ・ 国際政治の特質と国際法 ・ 現代の国際政治の動向
	国際社会における貧困や格差の問題などを基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていることを学ぶ。 ・ 商品・資本の流れと国際収支 ・ 国際経済体制の変化
3 学期	基礎知識を問う正誤判断問題に加え、資料の読解力や論理的思考力を要する問題にも対応できるよう、演習に取り組む。 ・ 入試問題対策

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。(新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋)

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 3 年	選択	公民	倫理	2
教科書・教材				
『詳述 倫理』（実務教育出版）				

授業のねらい（年間指導目標）

人間としての在り方や生き方についての見方や考え方を働かせ、現代の倫理や社会に関わる諸課題を探究し、その解決に向けた構想を行う活動を通して、人間尊重の精神を培い、国際社会で主体的に生きるために必要な資質や能力を身に付ける。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	ソクラテスの言行やプラトン、アリストテレスの思想を学びながら、人生への問いの重要性や人間の存在・価値について、自らの課題と結び付けて考察する。 ・ギリシア思想 ・キリスト教
	人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について、哲学・宗教・芸術における先哲の基本的な考え方を手掛かりにしながら、自らの課題について思索する。 ・イスラーム、仏教 ・中国思想
2 学期	先哲が人間をどのようにとらえたかを手掛かりにして、人間の尊厳について考察を深めるとともに、生命への畏敬が現代における倫理的課題であることを理解する。 ・人間の尊厳（ルネサンス、経験論・合理論） ・民主社会と自由の実現（社会契約説・功利主義）
	民主社会の倫理的な見方や考え方について、個人と社会の関係、個人と国家や法の間を主な視点として考察し、西洋思想を受容した日本時の思想についても学ぶ。 ・近代的人間の見直し（実存主義） ・西洋思想の受容と展開
3 学期	考察・選択・判断を行うための手掛かりとなる概念や理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に読み取る技能を身に付ける。 ・諸課題と倫理（生命倫理、環境倫理、科学倫理） ・入試問題対策

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。(新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋)

シラバス〔社会科〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 3 年	選択	公民	探究演習公共	3
教科書・教材				
『公共』（実教出版）				

授業のねらい（年間指導目標）

倫理・政治・経済・国際分野の知識に関わる学びを深め、現代社会をとりまく様々な問題やその背景を論理的かつ俯瞰する力を養う。また、演習問題を繰り返すことにより、大学受験にも対応できる力を養う。

授業の進め方（年間指導計画）

1 学期	資源の効率的な配分をめぐる学説・議論の整理をすすめ、世界や国内の各政策を正しく把握する。日本の市場経済システムの構造を理解し、今後の日本経済の望ましい在り方を考察できる力を養う。小テストや演習問題を通し、学力の定着を図る。 ・ 日本経済の特質 ・ 経済と国民生活
	日本における政治・経済分野の知識を土台とし、国際社会の動向に関わる視点を育む。新聞やニュース時事能力検定の問題等を活用し、最新の動向についても把握する。 ・ 国際政治の動向と課題 ・ 国際経済の潮流
2 学期	既習した倫理分野の重要語句や頻出箇所を、改めて重点的に確認し、幸福・正義・公正などの多様な視点で社会的事象を捉えていく。 ・ 自己形成と社会参加 ・ 古代ギリシアから現代の哲学思想までの流れ
	既習した政治分野の重要語句や頻出箇所を、改めて重点的に確認する。各種大学入試での出題頻度が高い日本国憲法の原文や判例については、資料等も活用し、大学共通テストに対応できる学力を育む。 ・ 日本国憲法 ・ 政治機構
3 学期	社会に出てから、これまでの学習を通じて身につけた倫理・政治・経済・国際分野の知識やものの見方を活用できる能力の習得を目標とし、ふりかえりをおこなう。また問題演習に取り組み、大学共通テストに対応できる学力を育む。 ・ 入試問題演習

評価方法

定期考査(知識の定着を確認する基本問題 50 点・思考力判断力を中心に問う標準問題 30 点・表現力を試す発展問題 20 点)7 割、小テスト・課題・授業時の取り組み姿勢などを 3 割で評価する。

備考

月に 1 時間のサマライズタイムでは、時事・社会問題、文化に関連する内容を扱う。(新聞記事やコラム、社会学系の書籍から抜粋)